九州
＊じゃんがら春秋

ザ・かんなし Part 7

かんくろう 恐怖のデート編

＊誤字・脱字はゆるしてちょんまげ！

♡かんなしこ昔からとやー、荒くれ者っちゅうか、けんか好きっちゅうか、
いやー、それはそれはめいっぱい強いの…。強い上に
人間が持ちあわせている五感(ゴカン)のかんがない。
だから、いたさを知らないっちゅうの？ 自分はもちろん、相手にも
ほどほどた…ということを考えない。かんがないから「かんなし」
そんな若者達がくりひろげるノンフイクションの物語。
それがカンナシシリーズ・たい。※じえったいまねせんで下さい！

つい先日のこと。久しぶりに里（ふるさと）にかえっていや、おもしろか(？)話ばきかせてもらったたい。主人公はもちろん**かんくろう**。メンバーは運動がめっぽう得意だった**正**（ショー）ちゃんとご存知よか男の**海ひこ**たい。**僕**が久しぶりに郷里の土をふんだっちゅうことで集まってね。うれしかったあ。たのしかったあ。でもその中でやっぱかんくろうの話…最高!! そして それをきいていた海ひこの感想。それがまた大笑いなのであった。

——○それではまずはその場面から。

かんくろう「やっぱ焼肉はうまかなーっ!! おばちゃーん ホルモンば2・3皿もって来てー!! はよーはよー!!」いつものように絶好調!!

僕「なあ！かんくろう。もう最近はかんくろうも少しは落ち着いて、よか大人になったけん けんかはしとらんよねー」

正ちゃん「なーん!! かんくろうは いつもバリバリよーっ!! エブリデー エブリナイト ファイターだけんねー。にゃー かんくろう!!」

かんくろう「そぎゃーん 言うなよ!! 正ちゃん、まるで俺が かんなしんごついいよるもん!! ウァッハハーハッハー!! まいるバイまいるバイ!!」全く自分のことはわかっていない…。

心の中で いやっ!! 君こそ実はking of かんなしだよ！ 君こそがいとしのウルトラかんなしなんだよ。僕はそう思った。

海ひこ「ムシャムシャ!! パクパク…. ガルルルル…」

海ひこはひたすら生焼けのホルモンにかじりついている。

かんくろう「ついこの前にゃー….まいったばい。俺にけんか売ってくるタコ坊主がおってなあ…. 実はなあ… うまかにゃー ホルモンは」

かんくろう「このまえなあ、ここはバッチリ決めんといかん!!って思ってみっちゃん（かんくろうが最近心をよせているごくふつうの女の子。この子はかんくろうがかんなしだということを知らない。）ばドライブにさそったたい。よか景色でねー!! 昼めしばたべて、さあ出発!! 山ば登る 登り車線でなあー。後ろのベンツがなあ、後ろからパッシングするとたい!! ピカピカピカピカピカピカピカってね。 」

僕「うわー!! かんくろうの車にパッシングーっ？ そっそんなあ….。」といってかんくろうをみると もうかんくろうの目がね、 大魔神の目になっていた…。

かんくろう「みっちゃんよかねー、空気もよかねーって言いよった最中にピカピカでしょうが…。だけん俺、何か用事かな？って思ったったい」意外に落ち着いた反応である。かんくろうらしくない…。そんなバカな。

海ひこ「よかよか…!! 前おきはよか、はよ話さんかあ！ バトルばファイトばはよーはよーっ!!」

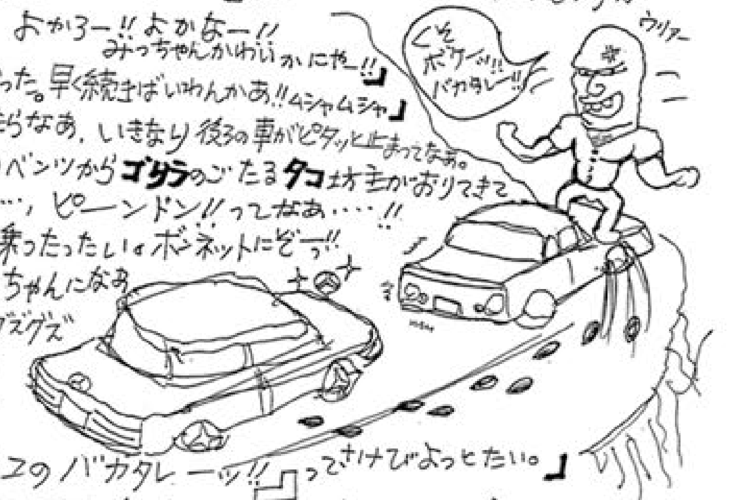
いやー!! 全く海ひこらしい発言。でもその通りかも知れない。結局かんくろうは思うぞんぶんファイトしているのだろうから。

かんくろう「まあまあおっとけーっ!! 落ちつきたまえみなしゃん!! 俺が用かな？って思ったけんブレーキばふんでゆっくり走ったったい。そしたらねー、クラクションばプープープー!!って鳴らすとたい。えーっ？ えーっ？ どぎゃん思う、許せるねー？ デート中ばい。俺はみっちゃんとデート中ばい？ みっちゃんがなー!! となりでなー!! 『かんくろうさん！ 私、こわい、こわかあー』って か細い声で言うとたい。『みっちゃん！ 心配せんでよかよ、ちょっと止まって話ばしてくるね…』って言うたら みっちゃんが俺の手ばにぎって離さんとよー。よかろー!! よかなー!! みっちゃんかわいかにゃー!!」

海ひこ「わかったわかった。早く続きばいわんかあ!! ムシャムシャ」

かんくろう「キーッって止めたらなあ、いきなり後ろの車がピタッと止まってなあ。そしてなあ、なんと…. そのベンツから**ゴリラ**のごたる**タコ**坊主がおりてきて俺の大切な車になあ…., ピーンドン!!ってなあ….!! ボンネットの上に飛び乗ったったい。ボンネットにぞっ!! そしてなあ！ 俺とみッちゃんになあ

『なんばちんたらのろのろ、グズグズ走りよるかあー
このくそボケがあ！
命のいくつあっても
足らんぞー!! このバカタレーッ!!』ってさけびよったとたい。」


くそボケーッ!! バカタレー!!
ウリァー

僕達3人はもう何もしゃべれなくなった。かんくろうにそんなことも言うなんて しかもかんくろうが大切にしている車、そしてみっちゃん…。いくら**相手**が腕に覚えがあっても…。そして僕が聞いた。**僕**「そっ…それからどうしたの？」

かんくろう「ききたかやぁ？ ききたかろーっ!! ウハ、ウハ、ワッハハー!!」

つづく